

6-1. 比喩序論

比喩序論は時代の価値性を伝えるのが目的。大事なのは今の時代。歴史観を持って欲しい。誰によって比喩が解かれているのか。

聖書は旧約・新約共に比喩で多くのことが書かれている。

〈エゼキエル書 20 : 49〉 p.1176

彼（＝エゼキエル）はたとえて語る。エゼキエルは預言者だから、その言葉は神様から出た言葉。ゆえに神様は比喩で語られる。

〈マタイによる福音書 13 : 34～35〉 p.21

譬によらないでは何事も彼らに語られなかった。

〈ルカによる福音書 8 : 9～10〉 p.98

比喩は

- ・わかりやすいように
- ・反対する人に真理を包み隠すため

比喩が解かれる日が来る

〈ヨハネによる福音書 14 : 16～17〉

真理の御霊＝再臨主

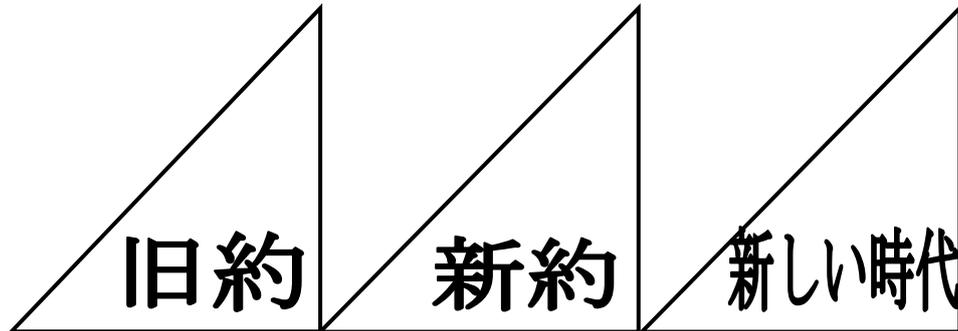
〈ヨハネによる福音書 16 : 12～13、25〉 p.168

真理の御霊が来るときにはあらゆる比喩が解かれる。もはや比喩では語らず、あからさまに。イエスの時代の弟子は聖書にも疎いし、水準も低かった。比喩が解けるのは一大事件。6000年間謎だったものだから。

〈イザヤ書 34 : 16〉

連れ合いを欠くものがない。再臨主も聖書に基づいて解く

〈神様の歴史について〉



信仰性	律法	信仰	実践
関係性	主従関係 (主人と僕)	親子 (父と子)	恋人 (新郎と新婦)
認識観	象徴	比喩	実体

信仰性とは何をすれば神様が喜ばれるか。関係性とは神様と人間はどういう関係か。認識観はこの時代はどういう時代か。

～信仰性について～

〈旧約：律法〉

〈出エジプト記 20 : 1～17〉 p.102

律法を守るかどうか。

〈出エジプト記 16 : 4〉 p.96

律法を守ると祝福、破ると裁き。神様と神様が遣わしたキリストを信じるのが信仰。

〈へブル人への手紙 11 : 1～6〉

信仰とは望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認すること。

〈ヨハネによる福音書 3 : 16～18〉 p.139

信じる人は救われ、信じなければ裁き。

<新約：信仰>

〈ローマ 3：28〉 p.237

義とされるのは律法を守るのではなく、信じること。

〈ローマ 10：4〉 p.246

イエスによって律法→信仰へ

〈マタイによる福音書 5：17～18〉

律法を完成させたのが信仰

〈ローマ 13：8～10〉

愛は律法を完成させる。

〈マタイによる福音書 22：37～40〉 p.237

心と思いと精神を尽くして主なる神を愛せよ。神様を愛すれば殺すなという律法は不要。

<新しい時代：実体>

〈マタイによる福音書 6：9～10〉

実体・実践の時代

〈ヤコブの手紙 2：24～26〉 p.362

義とされるのは行いによる。信仰だけではない。御言葉を実践することが必要。信仰と実践は車の両輪。祈るだけは新約。信仰だけだと 50 点。神様の理想世界をなすために実能的に動く時。その時代に今生まれたことに感謝。律法の時代だと大変。

～関係性について～

<旧約：主従関係・主人と僕>

〈創世記 18：1～3〉 p.19

アブラハムのような義人でも神様から見たら僕

〈創世記 26：24〉

旧約のどんな人物も神様から見たら僕

〈アモス書 3：7〉 p.1269

僕である預言者。

<新約：親子の関係>

〈ヨハネによる福音書 5：22～27〉

イエスは神様を父といっている。イエスが来ることにより僕から子へ

〈ルカによる福音書 23：21～22〉

天からあなたは私の愛する子。

〈ヨハネによる福音書 1：12〉 p.135

イエスを信じると子に。イエスはついてくる人を兄弟と言った

〈ガラテヤ 3：23～29〉 p.296

イエスが現れる前は養育係。分別の無い幼い子の命を守るため

〈ガラテヤ 4：1～7〉

子どもは財産を受け継ぐ権利はあるが、僕は無い。

<新しい時代：恋人の関係>

〈黙示録 21：1～2、9〉

人間は神様の花嫁。

〈マタイによる福音書 9：14～15〉

新しい時代はよく婚宴のパーティーにたとえられる。

自立の時代だといえる。僕は命じられるがまま、子どもは求めるだけ、恋人は自分から与えられる関係。

そういう授受関係を築かないといけない。

～認識観について～

<旧約：象徴>

〈創世記 4：3～4〉

アベルとカインが捧げ物をする場面。アダムとエバが墮落して万物以下になったので、それ以来捧げ物が必要になった。新入社員がいきなり社長に意見は難しいので、課長や部長を通すのと同じ。

〈創世記 15：7～11〉

アブラハムでも僕の関係なので捧げ物を捧げなければならなかった。

<新約：比喩>

〈マタイによる福音書 13 : 34~35〉

イエスは伝える人にわかりやすいため、また迫害を避けるため比喩で伝えた。イエスはすべての比喩を解く予定だったが、十字架にかけられた。

<新しい時代：実体の時代>

〈ヨハネによる福音書 16 : 12~13、25〉

比喩が解かれている時代。

〈ルカによる福音書 12 : 54~56〉

天気は見分けられるのに、どうして時代が分からないのか。律法の時代に留まっているのか。これは歴史的にも個人的にも言えること。旧時代に戻ってはいけない。新しい時代に生まれても古い段階にいてはいけない。